

名古屋大学附属図書館研究開発室
年次報告
2017

*Annual Report of Nagoya University
Library Studies 2017*

目 次

I. 名古屋大学附属図書館研究開発規程	1
II. 室 員 名 簿	2
III. 事 業 報 告	3
IV. 研究開発概況	5

I. 名古屋大学附属図書館研究開発室規程

制 定 平成16年4月1日

(設置)

第1条 名古屋大学附属図書館に研究開発室を置く。

(目的)

第2条 研究会開発室は、大学における学術情報の収集、保存、提供等の教育支援活動のうち、附属図書館長が定める事項に関する研究開発及び図書館情報教育を行い、もってハイブリッド図書館としての機能の強化を図るとともに、高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

(室長)

第3条 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。

2 室長は、研究開発室の業務を掌握する。

(室員)

第4条 研究開発室に、専任室員若干名を置く。

2 専任室員は、本学大学教員のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。

3 第1項に定めるもののほか、研究開発室に兼任室員を置くことができる。

4 室員は、室長の指示に従い、研究開発室の業務に従事する。

(細則)

第5条 この規程に定めるもののほか、研究開発室に関し必要な事項は、附属図書館長が定める。

附則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

Ⅱ. 室員名簿

	氏名	専門領域／所属・職名／着任
室長	森 仁志	分化情報制御 生命農学研究科・教授（附属図書館長） 2015年4月～
専任室員	石川 寛	日本史学 人文学研究科・特任准教授 2010年4月～
研究員	松波京子	西洋書誌学、科学史 研究開発室 2015年4月～
兼任室員	長尾伸一	社会思想・政治思想・政治経済学 経済学研究科・教授 2002年4月～
兼任室員	塩村 耕	日本文学 人文学研究科・教授 2003年4月～
兼任室員	外山勝彦	知識情報処理・自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・教授 2013年3月～
兼任室員	小川泰弘	自然言語処理・法情報処理 情報基盤センター・准教授 2013年4月～
兼任室員	大野誠寛	知能情報学 情報基盤センター・助教 2012年4月～2017年10月
兼任室員	山里敬也	通信ネットワーク工学・教育工学 教養教育院・教授 2014年4月～
兼任室員	頼 偉寧	認知科学 教養教育院・特任准教授 2014年4月～
兼任室員	斎藤 夏来	日本史学 人文学研究科・教授 2017年4月～

Ⅲ. 事業報告

①室員及び研究開発内容

室長	森 仁志	全体統括
専任室員	石川 寛	(1)高木家文書の文化財調査に向けた整理作業 (2)コンテンツ開発・地域連携強化
研究員	松波京子	(1)西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備 (2)平成29年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費) データベース事業の遂行 (3)その他
兼任教授	長尾伸一	(1)近代西洋思想史古典文献データベースの開発
兼任教授	塩村 耕	(1)附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究 (2)西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
兼任教授 兼任准教授 兼任助教	外山勝彦 小川泰弘 大野誠寛	(1)多言語翻訳支援情報基盤の構築
兼任教授	山里敬也	(1)著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発
兼任准教授	頼 偉寧	(1)Develop academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general. (2)Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students. (3)Develop teaching materials for the workshop series
兼任教授	斎藤 夏来	(1)初期高木家および関連文書に関する研究 (2)附属図書館所蔵尾張藩奥医師野間家文書に関する研究

②活動概況（開発室全体に関する事項）

2016年秋季特別展 旗本高木家の明治維新（高木家文書展）	2017年10月20日 ～11月28日
第40回トークサロン 西鶴が描く人間の〈虚実〉	2017年8月31日
第41回トークサロン 郷土資料、郷土人資料のおもしろさについて 一思いもよらぬ発見が続々	2017年11月6日
第42回トークサロン 明治期・愛知県における流行歌謡小冊子の出版—岡崎・鳳仙堂の薄物唄本を中心に—	2018年3月6日

③刊行物

旗本高木家の明治維新〈展示パンフレット〉	2017年10月20日発行
名古屋大学附属図書館研究年報 第15号	2018年3月31日発行
名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告2017	2018年3月31日発行

IV. 研究開発概況

■ 森 仁志（室長・附属図書館長・生命農学研究科教授）

■ 研究開発事項

全体統括

■ 成果のリスト

[その他の役割]

1. 国立大学図書館協会理事館館長
2. 国立大学図書館協会学術資料整備委員会委員長
3. 東海北陸地区国立大学図書館協会会長
4. 東海地区大学図書館協議会会長
5. 東海地区図書館協議会会長
6. 名古屋大学高等教育研究センター主催学生論文コンテスト審査員

■ 石川 寛（室員・文学研究科特任准教授）

■ 研究開発事項

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業
- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

■ 研究開発状況

- (1) 高木家文書の文化財調査に向けた整理作業

名古屋大学附属図書館が所蔵する高木家文書については、昨年度に引き続き目録整備作業を実施し、目録の確認作業に着手している。

- (2) コンテンツ開発・地域連携強化

コンテンツ開発については、新サーバーへの移行にともない、高木家文書デジタルライブラリーを全面リニューアルした（https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi）。当館所蔵の「高木家文書」のみならず、調査・整理した他機関・個人蔵の高木家文書も登録することで、分散した旗本高木家文書をデジタル上で統合し、所蔵者の枠を超えた横断検索と貴重資料のデジタル画像閲覧を可能とし、高度な活用を実現しつつある。また、木曾三川流域・濃尾地域の特色ある資料群を公開していたデータベース「流域伝来の歴史情報資源」も統合した。登録件数は、メタデータ7万6866件、画像23万4074点にのぼる。

また、今年度は地域貢献特別支援事業（総長裁量経費）「西濃地域における歴史資料の整理と活用」が採択された。主な取り組みは以下の通りである。

1. 大垣市牧田村吉田家文書

大垣市教育委員会の依頼により、上石津郡牧田村（現岐阜県大垣市上石津地域）の吉田家に受け継がれてきた資料群の整理を実施し、来年度の目録刊行に向けて分類作業と目録データのチェックに取り組んだ。また、チェックを終えた資料から順次撮影を実施した。

2. 本館以外の高木家文書

東高木家文書を含む広栄寺文書の整理をおこない目録を発表した。西高木家文書を含む海津市歴史民俗資料館所蔵岡田家文書については海津市教育委員会と連名で目録を刊行した。前年度に引き続き高木久子氏所蔵高木家文書の調査に取り組み、近代の新たな資料を確認した。また、山論絵図を含む岩須自治会資料のデジタル撮影を実施した。

このほか東高木家文書（個人蔵）については新出資料796点の整理・補修・撮影をおこなった。北高木家関係文書（個人蔵）については目録公開にむけた点検作業を継続実施した。

3. 養老町教育委員会への協力

養老町教育委員会の依頼による西脇家文書の目録を作成し、報告書を提出した。

4. 展示会の開催

旗本文書として多彩な内容を有する高木家文書を紹介することを目的に秋季特別展「旗本高木家の明治維新」を開催した（10月20日～11月28日）。好評を博したため会期を2週間延長し、入場者は915人にのぼった。また、関連企画として開催された大垣市上石津郷土資料館の企画展「高木家文書からみる山間地域の暮らし」（10月28日～12月27日）に協力した。

5. 「歴史地震」研究

環境学研究科附属地震火山研究センターの山中佳子准教授が代表をつとめる「古文書を用いた南海トラフ超巨大地震の地震発生メカニズムの解明」（災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画）に参加し、歴史地震史料の調査・収集と解説を進め、成果を報告した。

■ 成果のリスト（図書館関係のみ）

〔論文等〕

1. 『海津市歴史民俗資料館所蔵岡田家文書目録』 海津市教育委員会・名古屋大学附属図書館 2017年12月
2. 『旗本高木家の明治維新』 展示パンフレット 2017年10月
3. 「高木家文書を中心とした木曾三川流域の歴史資料の整理と活用」『名古屋大学環境報告書2017』 2017年9月
4. 「広栄寺文書目録」『名古屋大学附属図書館研究年報』15 2018年3月
5. 「安政東海・南海地震の被害と尾張藩の救済—史料学的検討を踏まえて—」『愛知県史研究』22 2018年3月

〔講演・講義〕

1. 高木家文書連続講座「旗本高木家の明治維新1」 2017年10月28日（上石津地域事務所）
2. 高木家文書連続講座「旗本高木家の明治維新2」 2017年11月11日（上石津地域事務所）
3. アーカイブズ学入門 第6回「前近代のアーカイブズ—古文書実習—」（全学教育科目）
2017年11月13日
4. 平成29年度人文学研究科シンポジウム「人文学の宝—学内の文化財」において「高木家文書—治水資料の宝庫—」を報告 2018年3月10日（文学部講義棟237講義室）

■ 松波 京子（研究員・研究開発室）

■ 研究開発事項

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備
- (2) 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）
データベース事業の遂行
- (3) その他

■ 研究開発概況

- (1) 西洋古典籍貴重書特殊文庫・コレクションの整備
 - ・(2)の事業にも含まれるが、**Hobbes I**を中心に、目録の再調査を行った。
 - ・当館のコレクションを補完する資料を選定した。
- (2) 平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）
データベース事業の遂行
 - ・今年度採択された科研費事業によって「ホップズ・水田コレクションデータベース」を作成した。
 - ・また、デジタル公開をされる古典籍を中心に、目録の再調査を行った。
- (3) その他
 - ・2015年度に水田名誉教授より寄贈された一般研究図書の入力準備を行った。
 - ・早稲田大学坂倉教授に、当館が所蔵する『エミール』に関連する論文執筆依頼を行い、執筆にあたっての協力を行った。

■ 成果のリスト

[報告書]

1. 坂倉裕治、隠岐さや香、松波京子「名古屋大学所蔵『エミール』パリ版初版について」『名古屋大学附属図書館研究年報』第15号(2017年3月)、13-17頁。

■ 長尾 伸一（兼任室員・経済学研究科教授）

■ 研究開発事項

(1)近代西洋思想史古典文献データベースの開発

■ 研究開発概況

(1)近代西洋思想史古典文献データベースの開発

水田文庫と従来の近代西洋思想史関係貴重資料を統合するデータベースを作成し、併せて研究・教育サービスを向上するため、JSPS 研究成果公開促進費を得て、ホップズ・コレクションと他の貴重図書の電子化を行い、HP での公開準備までを遂行した。

■ 成果のリスト

[学会発表]

1. 長尾伸一「複数世界論の普遍性、多様性と18世紀における機能」、坂本貴司 玉田敦子 林文隆 鈴木彰，日本18世紀学会全国大会共通論題報告、2017年6月25日、立教大学など

■ 塩村 耕（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発テーマ

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究

■ 研究開発概況

- (1) 附属図書館所蔵和書古典籍の調査・目録作成と〈名大システム〉古典籍書誌DB構築の研究、及び文化資源活用のための研究
 - ・前年度に引き続き、附属図書館所蔵の古典籍の調査及びDB化作業をすすめた。
 - ・〈名大システム〉古典籍書誌DBの運営・改善を支援した。
 - ・「古書の会」月例会を主宰、図書館職員・一般市民・学生が参加して、古文献の読解能力と古典籍取り扱い能力の向上に努めた。
- (2) 西尾市岩瀬文庫所蔵古典籍の調査・DB化、及び文化資源活用の地域連携の研究
 - ・前年度に引き続き、岩瀬文庫所蔵古典籍の悉皆調査及びDB化作業をすすめた。
 - ・既に試験公開中の岩瀬文庫書誌DBのデータを改善した。
 - ・講演会及び岩瀬文庫に於ける展示を通して、岩瀬文庫の価値や悉皆調査の意義について社会に情報を発信した。
 - ・2017年10月に西尾市で催された第12回「にしお本まつり」に実行委員会相談役として参加し、書物を通じた町おこしという地域連携に取り組んだ。

■ 成果のリスト

[論文]

1. 「近世における写本と版本の関係は」. 上原作和等編『古典文学の常識を疑う』. 2017年5月. 勉誠出版刊. 192-195頁
2. 「古きくふみを読むということ(講演録)」. 『あいち国文』. 11号. 2017年9月. 1-11頁
3. 「津藩儒、塩田随斎の書簡集」. 『日本古書通信』. 82巻12号. 2017年12月. 5-7頁
4. 「古典籍書誌 DB のすすめ(講演抄録)」. 『東海地区大学図書館協議会誌』. 62号. 2017年12月. 20-27頁
5. 「上野洋三「岡西惟中年譜稿」(千号記念特輯『国語国文』この一篇)」. 『国語国文』. 87巻1号. 2018年1月. 48-49頁

[講演等]

1. 「書物をめぐる三河の文化風土」. 2017年4月23日. 村上忠順翁顕彰会定例総会(於豊田市前林交流館) ※講演
2. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2017年5月24日. 安城南高校(於名古屋大学) ※模擬授業

3. 「芭蕉と岐阜」. 2017年6月7日. 岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会(於十八楼) ※講演
4. 「岩瀬文庫で出会った人と本」. 2017年6月9日. 日本古書通信社主催古書セミナー(於駿河台ヤギビル) ※講演
5. 「江戸時代文人の手紙を楽しむ」. 2017年6月10日. 東洋文化振興会(於新日本法規出版(株)本社別館) ※講演
6. 「長編物語としての塩田随斎書簡集」. 2017年7月8日. 名古屋大学国語国文学会春季大会・シンポジウム「文学としての手紙」(於名古屋大学文学部) ※研究発表
7. 「忠順翁の手紙を読む」. 2017年8月5日・9月2日・10月7日・11月4日. 村上忠順翁顕彰会(於豊田市前林交流館) ※連続講演
8. 「書は人なり—その11」. 2017年9月13日. 主催「ともしび」(女性市民団体、於岐阜市寺町瑞龍寺) ※講演
9. 「三河と古書との特別な関係」. 2017年9月23日. (於正文館書店・知立八ツ田店) ※講演
10. 「見ぬ世の人を友とすること」. 2017年10月19日. 愛知県立半田高等学校「大学・学部・学科研究会」 ※講演
11. 「岩瀬文庫本をちょっとだけ専門的に読む～古典文学ゼミナール入門⑨」. 2017年10月28日. にしお本まつり(於西尾市岩瀬文庫) ※講演
12. 「あなたと私が大学に行く人類史的意味」. 2017年11月9日. 名古屋市立菊里高校「総合的な学習の時間・探求」 ※渡邊誠一郎(環境学研究科)とともにパネル・ディスカッション
13. 「おそろべき古書の集積—西尾市岩瀬文庫の珍奇本より—」. 2018年1月18日. 学問喫茶(於三省堂書店・名古屋本店) ※講演
14. 「今年度の資料調査からわかったこと」. 岩瀬文庫特別講座(於西尾市岩瀬文庫). 2018年3月11日 ※講演

[その他]

1. 「江戸を読む—この豊かなる古書世界—」. 『中日新聞』. 2017年10月17日～. ※火曜日朝刊(『東京新聞』は日曜)に連載中
2. 展示図録『こんな本があった！—岩瀬文庫平成悉皆調査中間報告展15—』. 2018年1月. 全23頁

- 外山 勝彦 (兼任室員・情報基盤センター教授)
- 小川 泰弘 (兼任室員・情報基盤センター准教授)
- 大野 誠寛 (兼任室員・情報基盤センター助教) (2017年10月31日まで)

■ 研究開発事項

- (1) 多言語翻訳支援情報基盤の構築

■ 研究開発概況

- (1) 多言語翻訳支援情報基盤の構築

大学の国際化が叫ばれて久しい昨今、日本語だけでなく、できるかぎり多様な言語で適切でタイムリーな情報提供が行われ、教育、研究、大学運営の各レベルで良好なコミュニケーション環境を提供することが望ましい。良好なコミュニケーション環境の実現には、各レベルで各種情報を翻訳するという課題が付随する。そこで、学内の翻訳作業において生じている各種問題に対処し、情報の多言語化の促進、および大学の国際化に貢献することを目的として、学内における各種文書の多言語翻訳を支援する情報基盤サービスの構築を昨年度に引き続き推進した。本年度実施した項目を以下に示す。

【翻訳支援ソフトウェアの保守管理・講習会の実施】

学内文書の多言語翻訳を支援する情報基盤サービスの構築の一環として、翻訳支援ソフトウェアとして著名な SDL 社の Trados 関連ソフト一式 (SDL Trados Studio と GroupShare Server)、また、川村インターナショナルの統計的機械翻訳エンジン Globalese をこれまでに導入している。本年度は、これらのソフトウェアの保守管理や講習会を国際機構英文化推進室と連携して実施した。具体的な実施内容を以下に示す。

1. SDL Trados Studio 2017 ネットワークライセンスの保有済み8ライセンスに対して、年間保守契約を更新した。なお、昨年度、年間保守契約を更新しなかった12ネットワークライセンスについては、引き続き、年間保守契約を更新しないこととした。
2. SDL Trados Studio 2017 シングルユーザライセンスの保有済み4ライセンスに対して、年間保守契約を更新した。
3. SDL GroupShare Server 2017 (12CAL, 100万 TU) に対して、年間保守契約を更新した。なお、昨年度、年間保守契約を更新しなかった10 CAL については、引き続き、年間保守契約を更新しないこととした。
4. 川村インターナショナルの統計的機械翻訳エンジン Globalese の年間保守契約については、ニューラル機械翻訳という最新技術が台頭してきたこともあり、一定の役割は果たしたものとして、更新しないこととした。
5. 附属図書館や施設管理部、職員課の有志の事務職員を対象として、SDL

Trados Studio 2017およびSDL GroupShare Server2015を実際に使用してもらう講習会を英文化推進室の主導のもと実施した、

【翻訳メモリの更新】

翻訳メモリの元データといえる学内文書対訳用例は日々、学内情報翻訳データベース NUTRIAD (<http://nutriad.provost.nagoya-u.ac.jp/>) に追加登録されており、その蓄積数は毎年増加している。そこで昨年度、Trados における学内文書翻訳用の翻訳メモリを定期的に更新するワークフローを検討し決定した。このワークフローに基づいて翻訳メモリを更新する作業を3回実施した。各回の作業による翻訳メモリ中の翻訳ユニットの推移を表1に示す。

表1 翻訳メモリ中の翻訳ユニット数の推移 (2017年度)

更新回	翻訳ユニット数	
	規程類用翻訳メモリ	一般文書用翻訳メモリ
新規構築 (2015年3月6日) (注)	20,039	93,537
第1回更新 (2017年4月26日)	44,983 (+24,944)	111,803 (+18,266)
第2回更新 (2017年8月1日)	46,686 (+1,703)	115,098 (+3,295)
第3回更新 (2017年12月28日)	49,154 (+2,468)	121,673 (+6,575)

(注) 運用開始時点では翻訳メモリは1つのみ、2015年12月26日に2つに分割。

【対訳用語集の更新】

統計的機械翻訳技術を用いた対訳用語抽出手法を活用して、これまでに構築した翻訳メモリから、新たな対訳用語となり得る候補8,301対を昨年度、自動抽出した。この対訳用語候補対と、「高等教育に関する質保証関係用語集第3版」(大学改革支援・学位授与機構・編、平成23年10月)に掲載されている対訳用語候補対の中から、実際に対訳用語集に登録すべき対訳用語対を手で選定する作業を現在、国際機構英文化推進室の翻訳者2名と、学内文書翻訳に精通した教員(同室員)1名とともに推進しているところである。この選定作業結果の一部を先行して使用して、対訳用語集「学内用語標準対訳辞書」を構築し、Trados の対訳用語集 TermBase として登録した(4月26日実施; 165対訳用語対を新規登録)。また、さらに、新規に選定された対訳用語対を適宜、追加登録する作業を2回行った。この追加登録作業を含む対訳用語対数の推移は表2のとおりである。

表2 学内用語標準対訳辞書中の対訳用語数の推移 (2017年度)

更新回	対訳用語対数
新規構築 (2017年4月26日)	165
第1回更新 (2017年8月1日)	559 (+394)
第2回更新 (2017年12月28日)	664 (+105)

■ 成果のリスト

[その他]

学内文書翻訳用翻訳メモリおよび対訳用語集(上述)

(翻訳支援ソフトウェア Trados の TM および TB として組み込み)

■ 山里敬也（兼任室員・教養教育院教授）

■ 研究開発事項

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発

■ 研究開発概況

- (1) 著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成についての研究開発

著作権の二次利用、とりわけ著作権のあり方および学習教材の作成について大学学習資源コンソーシアム（CLR）と連携をとりつつ進めた。特に、昨年度から行っている CLR の実証実験を今年度も実施している。まだ期末試験が終わっていないが、十分な手応えを感じている。この実証実験については、成果リストにあるように名古屋高等教育研究誌へ投稿した。

また、昨年度末に実施された第5回研究開発室員報告会でも報告したように、昨年の通常国会で著作権法（第35条）が改正される予定であったが、解散・総選挙の影響で先送りとなり、今まさに開催されている通常国会で審議入りされる見込みである。引き続き、関係各所の動きを注視していく必要がある。とりわけ、同法で規定される著作権管理団体の動向については大学としての対応が必須となるが、現時点でカウンターパートとなる高等教育機関連合のような組織的な検討も進んで無い。このため、著作権管理団体の言いなりで値付け、利用範囲が決められる可能性が高く憂慮している。恐らく、著作権法（第35条）に伴う本学での対応窓口として、各大学図書館が担うことになるものと想像している。

■ 成果のリスト

[論文等]

1. 山里, ビデオ教材等を利用しない反転授業でも学習効果があるのか? — 貧乏人の反転授業の評価と考察 —, 名古屋高等教育研究, 2018年(掲載予定)

■ LAI Wai Ling 賴 偉寧 (兼任室員・教養教育院特任准教授)

■ 研究開発事項

- (1) Develop academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general.
- (2) Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students.
- (3) Develop teaching materials for the workshop series.

■ 研究開発概況

- (1) Develop a series of academic writing workshops that integrate a practical and constructive approach to logical thinking education into academic writing education for university students in general.

The aim of this research is to transform a graduate course into an annual library workshop series titled "Academic Writing and Logical Thinking Skills".

The goal of the workshop series is to teach students the necessary components of writing a satisfactory research paper. Specifically, the workshops aim to help graduate students as well as undergraduate students, through a step-by-step training in logical thinking, develop the skills needed to write an academic paper with a clear thesis statement and convincing support.

- (2) Transform a graduate course into a library workshop series suitable for both graduate and undergraduate students.

The goal of the graduate course is to help graduate students develop the skills needed to write a clear and convincing academic paper for publication at a high international level. But this goal is not suitable for the workshop series, which are designed for university students in general. In order to transform the specialized course into a general work series, special teaching methods and materials would have to be developed.

Between May and June in 2017, a series of workshops titled "Academic Writing and Logical Thinking Skills" were held at the Discovery Square, Central Library, Nagoya University. Developing from the teaching materials used in the graduate course, the workshops were designed for both undergraduate and graduate students to help them write a clear and convincing paper. Around thirty people participated in the workshops, and around twenty participants were awarded a certificate of completion.

(3) Develop teaching materials for the workshop series.

A textbook titled "The Thesis Statement Recipe: Textbook for the Library Workshop Series on Academic Writing and Logical Thinking Skills" was published internally by the library, and was used at the workshop series in 2017.

■ 成果のリスト

[論文]

1. Lai, W. L. "The Secret of Building a Logical Argument". NU Ideas. Volume 6. 2017. http://nuideas.ilas.nagoya-u.ac.jp/Volume6/6_contents.html

[講演]

1. Lai, W. L. "Introduction to Academic Writing and Logical Thinking". Hiroshima University writing center open lectures 2017. September 12, 2017.
2. Lai, W. L. "Thesis Statement". Hiroshima University writing center open lectures 2017. September 12, 2017.
3. Lai, W. L. "Logical Argument I". Hiroshima University writing center open lectures 2017. September 13, 2017.
4. Lai, W. L. "Logical Argument II". Hiroshima University writing center open lectures 2017. September 13, 2017.
5. Lai, W. L. "Change in Academic Writing Education". Keynote Speech delivered at The IAFOR Asian Conference on Education 2017, Art Center Kobe, Kobe. October 19, 2017.

[国際学会]

1. Lai, W. L. "What is the future of academic writing education?" London International Conference on Education 2017. Churchill College, Cambridge University. United Kingdom. December 11 - 14, 2017.

[その他]

(Nagoya University Library Workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 17 ~ June 14, 2017, Multipurpose Room, Nagoya University Library.)

1. Lai, W. L. "Why is it important to think logically for your writing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 17, 2017.
2. Lai, W. L. "How to make your writing clear". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 24, 2017.
3. Lai, W. L. "How to use logic practically". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", May 31, 2017.

4. Lai, W. L. "How to make your writing convincing". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 7, 2017.
5. Lai, W. L. "Final Presentations". Nagoya University Library workshops on "Academic Writing and Logical Thinking Skills", June 14, 2017.

■ 斎藤夏来（兼任室員・人文学研究科教授）

■ 研究開発事項

- (1) 初期高木家および関連文書に関する研究
- (2) 附属図書館所蔵尾張藩奥医師野間家文書に関する研究

■ 研究開発概況

- (1) 初期高木家および関連文書に関する研究

石川寛（専任室員・人文学研究科特任准教授）作成のエクセルデータ（ファイル名「御判物類写」）の提供をうけ、これまでに確認されている弘治～慶長期の初期文書に関する基本的な情報を整理した。そのうえで、2017年12月1日に大倉精神文化研究所（横浜市）に出張し、初期文書写を含む同所所蔵の東高木家文書を調査し、画像データなどを入手した。

- (2) 附属図書館所蔵尾張藩奥医師野間家文書に関する研究

日本福祉大学知多半島総合研究所の関係教員より、美浜町大仙寺を素材とした講演を依頼されたため、同寺所蔵の延徳三年左衛門大夫某寄進状、享保期頃の過去帳と、附属図書館所蔵「野間家文書」4-101、4-103、4-108との関連について、2017年9月6日の「美浜町歴史講座」において講演した。

■ 成果のリスト

〔講演〕

1. 「大仙寺と臨済宗」(美浜町教育委員会主催「美浜町歴史講座」、日時:2017年9月16日、場所:美浜町生涯学習センター)

第40回 名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン ふみよむゆふべ

題目：「西鶴が描く人間の〈虚実〉」
かたり： 堅田 陽子 氏（博士：岐阜工業高等専門学校講師）

井原西鶴は、「人は虚実の入物（いれもの）」という言葉を用いました。西鶴の作品には、虚実の両面をあらわにする人たちが、数多く描かれています。「虚（嘘）」と「実（本当）」は一人のひとのなかに同居するものであり、どちらか一方のみを持つ者はいないという人間観は、西鶴にとって根本的なテーマであるようです。今回は数話をとりあげ、作品にほどこされた趣向について解説しながら、西鶴の人物描写を見ていきたいと思います。



2017年8月31日（木）午後6時～
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

参加無料
 申込不要
 会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会 TEL 052-789-3684 FAX 052-789-3694 E-Mail tomo@nu.nagoya-u.ac.jp URL http://www.nu.nagoya-u.ac.jp/tomo/	(後援) 名古屋大学附属図書館、 同研究開発室	
--	-------------------------------	---

第41回 名古屋大学附属図書館 友の会 トークサロン ふみよむゆふべ

郷土資料、郷土人資料のおもしろさについて
 — 思いもよらぬ発見が続々 —

かたり： 戸田 豊志 氏（半田市立図書館）



郷土資料、郷土人資料は、一般には田舎くさく、かたくなしい印象がある。しかし、関わってみると、なかなか面白いことが見つかる。地方の町の小さな歴史が、全国どこか世界ともつながっていたりもする。日々の仕事のなかで経験し、考えてきたことを、さまざまなエピソードを交えて話します。

2017年11月6日（月）午後6時～
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

参加無料
 申込不要
 会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会 TEL 052-789-3684 E-Mail tomo@nu.nagoya-u.ac.jp URL http://www.nu.nagoya-u.ac.jp/tomo/	(後援) 名古屋大学附属図書館、 同研究開発室	
--	-------------------------------	---

第42回 名古屋大学附属図書館友の会 トークサロン ふみよむゆふべ

第42回 平成30年3月6日（火）午後6時から
名古屋大学中央図書館2階ディスカバリスクエア

「明治期・愛知県における流行歌謡小冊子の出版 — 岡崎・鳳仙堂の薄物唄本を中心に」
かたり： 満部 幹資 氏（元愛知県図書館）

江戸時代後期から明治末にかけて、木版、和紙で裏紙に絵が描かれた10ページ程度の流行歌謡の小冊子が各地で数多く出版された。愛知県でも明治10年代後半から同様の小冊子が発行された。中でも岡崎の鳳仙堂は明治20年頃から40年頃にかけて歌舞伎、講談などでよく知られた話、巷でおこった心中・殺人事件、日清・日露戦争などを題材に、400点近くのかぞえ唄やくどき節を出版した。鳳仙堂の唄本作りと頒布、人々の享受の仕方を探り、明治の民衆文化、書籍文化の一端を提示する。

参加無料
 申込不要
 会員以外の方も歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会 TEL 052-789-3684 FAX 052-789-3694 E-Mail tomo@nu.nagoya-u.ac.jp URL http://www.nu.nagoya-u.ac.jp/tomo/	(後援) 名古屋大学附属図書館、 同研究開発室	
--	-------------------------------	---

名古屋大学附属図書館2017年度秋季特別展（高木家文書展）

旗本高木家の明治維新

旗本高木家が維新変革のなかでどのような動きをしたのか、転身を遂げていったのか、高木家文書から紹介いたします。

2017年 10月20日（土）～11月14日（火）
 9:00-21:00（土・日・祝日も開館）

会場：名古屋大学中央図書館2階ビブリオサロン
 主催：名古屋大学附属図書館・附属図書館研究開発室
 〒464-8601 名古屋市中区千代田3-2-1760
 TEL 052-789-3678(受付) FAX 052-789-3694
 E-mail: sturam@nu.nagoya-u.ac.jp

関連企画 大塚市の企業展
 上石津郷土資料館企画展
「高木家文書からみる山間地域のくらし」
 開催日 10月28日～12月17日
 ●大人100円 ●高校生以下無料
 大塚市文化センター企画 企画費無料

問合せ 大塚市上石津郷土資料館 0564-45-3639
 大塚市教育委員会文化課 0564-47-8067(直通)



名古屋大学附属図書館研究開発室年次報告

第16号 (2017年度)

2018年3月31日発行

編集・発行 名古屋大学附属図書館研究開発室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話 052-789-3697
URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/libst/>
E-mail libst@nul.nagoya-u.ac.jp

